

# 北陸石仏の会々報

## 一石六観音

滝本 やすし

富山県南砺市北川(旧井波町今町)の路傍に地藏が納められた小堂があり、その周りに四基の石塔が建てられている。左手前の石塔に「南無金剛神」と刻まれており、庚申塚と呼ばれている。

左奥に建てられている金屋石(砺波市庄川町金屋で産出される緑色凝灰岩)の石塔は舟型に加工されており、一石に六観音が浮彫りされている。六体全て座像で、二体ずつ三段に並んでいる。総高約180cm。

磨滅が激しく像容がはっきりとしないが、上段左が馬頭観音、上段右が十一面千手観音、中段左が聖観音、中段右が十一面観音、下段左が准胝観音、下段右が如意輪観音である。正面右に細かな文字が刻まれているが、判読困難である。また正面下部には「金榮庄太郎」と刻まれている。

すぐ近くの高野山真言宗大寶寺境内の石造不動明王の左側面に三十一名の願主が刻まれており、その中にも金榮庄太郎の名がみられる。この不動明王は井波の石工常山金三郎の作で大正四年建立の銘が入っている。しかし六観音が彫られた石塔とこの不動明王とは手法が異なっているので、おそらく別の石工であろう。



代々同じ名前を継ぐことも考えられるので、それぞれの石仏に刻まれている金榮庄太郎が同一人物であるかは不明である。石造の六観音は北陸三県内で十数組確認しているが、一石に六観音が彫られた石塔はこの一基のみである。

### 第56号

平成30年12月15日発行

編集と発行

### 北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・ 一石六観音
- ・ コレラと石仏
- ・ 茶屋町「鎮火碑」の由来
- ・ 聖徳太子の彫像
- ・ 第57回例会報告
- ・ 会からのお知らせ

## コレラと石仏

尾田 武雄

はじめに

コレラは人から人へと伝染して流行する感染症である。感染症は細菌やウイルスなどの微生物が人や動物の体内に侵入し、組織や臓器の中で増殖した結果引き起こされる。「伝染病予防法」では、法定伝染病とされている。赤痢・痘瘡・チフス・ジフテリア・ペスト・日本脳炎などとともに怖い病気である。富山県でも幕末から明治期にかけて、何度かコレラの大流行があった。それが石仏の造立により、それが理解できる。

## 幕末期のコレラ

わが国に記録に出るのは文政五年（一八二二）である。その後安政五年（一八五八）に発生した。この年の旧暦六月に長崎で発したコレラは九州各地で蔓延し大坂、京都を経て七月以降は江戸で流行が始まって十月に及び、江戸での死者は三万人にも達したとされている。このコレラの流行は越中・能登・加賀の前田領三国にも波及しておりその他の史料により断片的に状況を知ることが出来る。（古岡英明著「安政五年のコレラ蔓延と浄土真宗一僧侶の対応」『富山史壇』第一六七号）

砺波市三島町の曹洞宗瑞祥寺の山門前には「ころり不動明王」がお堂に安置されている。そこには小さな浮彫の不動明王立像が安置されており、木の札も入っている。それには次のように記されている。

## 写真①②

## 南町不動社由縁

安政六年初秋大坂ニコロリ病（現在ノ荒烈羅病）流行夫レヨリ各地へ傳染シ多く其病ニ冒サレ死亡セリ其年八月中旬西砺波郡石黒村字桐木村三十郎（村ノ肝煎役）義桐木村等七カ村入会山字大岩谷ト称スル谷中ニ多年埋レ

タル不動尊ヲ掘出シ祈レハ此ノ病カヽラザル旨夢ノ告アリシヲ不審ニ思ヒ人足ヲシテ右谷ノ各所ヲ掘リケレハ果シテ不動ノ石像出給ヒリ此事遠近ノ人々聞傳ヒ余詣ノ男女日ニ数百人ニ及ヒリ然ルニ迷信ヲ以テ人民ヲ惑ハス故ヲ以テ時ノ郡奉行ヨリ其像ヲ杉木新御郡奉行所引揚ニ相成永書櫃ノ上ニアリシヲ得能覚兵衛（十村役）等時ノ奉行金子篤太郎へ願ニ相談所ニ鎮守トナシ堂宇ハ郡役人家ヨリ寄附金ニテ造作シ（作者高島兵四郎）万延元年ヨリ同所場ノ内ニ鎮座アリケリヲ菊池五郎右衛門（野尻組十村役）ノ紹介ニテ明治二年春拙家ノ守護仏ニ勸請シ素戔嗚尊ト改称シ奉リテ神宮ヲシテ毎年八月二十七日祭典行ヒ居リケルガ（□□）南町ノ信仰者ヨリ町内ノ祭神ニセントノ請ニ依リ詫リ奉レリ以上拙家跡鑑留及先考磯松ヨリ傳聞スル所ニヨリ述フルコト云爾

大正六年三月 高島順敬白

これは、安政六年にコレラが全国的に流行していた頃、南砺市桐木の大岩谷と言ったところから石造の不動尊が掘り出された。これを拝むとコレラが罹らないといわれ、一日数百人もの人々が参詣した。杉木新町（砺波市出町）にあった郡奉行所が「人民を惑わす」とのことで、郡役所預かりになった。その後明治二年に瑞祥寺に安置されることになったと言ったことである。コレラが怖いということで砺波の地でも、人々はこの不動尊にしか頼ることしかできなかったであろう。

## 明治初期のコレラ

## 写真③④ ⑤⑥

砺波市中野の辛口で有名な地酒立山の酒造会社前に駐車場脇に、たくさん石仏の入ったお堂がある。その中にひとときわ大きい薬師如来坐像が鎮座している。高さ一四七センチ、幅一〇四センチで「明治二十年六月」「南部元次」「惣連中」とある。富山県ではコレラが明治十二年と明治十九年、明治二十年の三回にわたり大流行した。十二年には富山県だけでも死者一万数千人

に及び、十九年も一万七百人も出て、砺波地方も同然であった。中野村でも十二年には八十五人、十九年には六十九人の死者が出た。このコレラが下火になった明治二十年に、地元の医師南部元次がそれを安堵し万病を癒し医療の仏であるこの石造薬師如来坐像建立されたといわれている。

また南砺市井波の閑乗寺登り口にはコレラ堂があり、そこには珍しい五大菩薩の内の無量力吼が納められている。この石仏の向かって右側面には「明治十九年戌十一月」とありお堂右側には「明治十九年十一月建立 昭和十八年再建 コレラ堂 世話方井波坂下会」とある。『いなみの石仏とお堂 第一集』（昭和六十年刊）によると「井波では発病者を生焼きにしたり、生き埋めにした例も少なくなかった。当時の生き地獄の後を子孫に語り伝え、悲惨な犠牲者の慰め、この恐ろしい疫病を封じるために、親類、縁者が相集い、その生地獄の地にコレラ堂を建立した。またこの地より東へ約一キロの場所にも、無量力吼が安置されている。これらは悲惨なコレラの伝染病のあったことを忘れないようにという、強い思いから造像されたのである。また毎年九月一日には祭りが行われている。



①瑞祥寺不動明王



②不動尊の木札



③砺波市中野のお堂



⑥無量力吼の銘文



⑤無量力吼



④薬師如来坐像

## 富山市茶屋町「鎮火碑」の由来

平井 一雄

富山市茶屋町の神明社に隣接して梵字（カーンマーン 不動明王）と「鎮火碑」の文字を刻した石碑がある。又、「乾亨和尚開山塔 龍吟庵」と刻した石碑と地藏堂がある。鎮火碑の背面に由来が刻してあるが摩耗して殆ど読めない。幸いに由来と修復記を書いた案内板もあるので翻刻して紹介する。また『富山市史』、『越中資料』に記された文政四年七月七日の愛宕村大火の記事を紹介する。

## 一、鎮火碑の由来

文政四年（一八二一）夏四月七日（旧暦）夜九時に出火し風にあおられて一夜で川北の愛宕一帯約千戸を焼き尽くした。わが桮崎家の祖先は永禄の乱に敗れて庶人に降ったが巻物や物の具などの遺物は代々大切に伝えきたのにこの火災でその大部分を焼失してしまった。守りがおろそかであった罪は遁れられぬので後日その燃え残りを愛宕社の境内に埋めしるしの石に梵字を刻り後世の鎮火の護符とする。わが罪の万分の一をつぐなうことができれば幸いである。桮崎二十八世孫政謹記

以上がこの碑の背の刻文の大意であるが明治元年に神仏分離令が出てこの碑を愛宕社から離すことになり、ここにあった龍吟庵の庵主が桮崎家の出身であった縁でこの境内に移したものである。当時の茶屋の村人も協力し丸太をして転がして運んだと伝えられている。当茶屋町では大火の日になんて毎年六月十日に鎮火祭を催している。

## 二、鎮火碑の修復に当たって

この鎮火碑は昭和五十九年九月十一日修復のため解体した。埋納されていたものは次の通り

- 一、刀三振、一、槍一振、一、組手一本
- 一、石球一個、一、巻物軸二本
- 一、経石多数、一、他に鉄片・木片

以上のものは富山市考古資料館に保管する。

ここに経過と目録を記して碑の中に納め永く後世に伝える。

昭和五十九年九月吉日

- ・ 今回の鎮火碑修復を行うに當って右のように記載した銅板を碑中に納めた。
- ・ この碑は明治末年にも積み直しが行われていることが確認された。

昭和五十九年九月末日

茶屋町自治会の囁をうけ

土井重治誌

## 三、参考資料

・ 『富山市史第一巻』

文政四年四月七日

船橋向愛宕町、商高木屋治郎兵衛の家から出火した。時に東南の風が烈しく、殆ど船橋向全部を焼失した。残す所は僅かに愛宕神社、その他町屋十餘戸で、餘火は駒見村に飛び、六七戸を延焼した。

・ 『越中史料卷之三』

文政四年四月七日、富山愛宕町出火あり

「杉木御觸留帳」

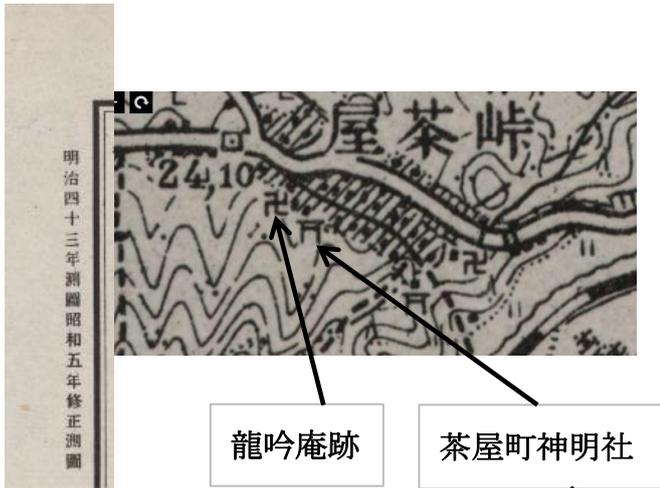
一、五拾七軒 愛宕町焼失家

一、百六軒 愛宕村焼失家

（注：愛宕以外略 平井）

右當月七日酉の上刻頃、婦負郡愛宕村、百姓町並木次郎兵衛より出火、右之通焼失仕候、尤人異変之義無之由に御座候、右承り合申に付、御注進申上候、以上

天正寺村 十兵衛

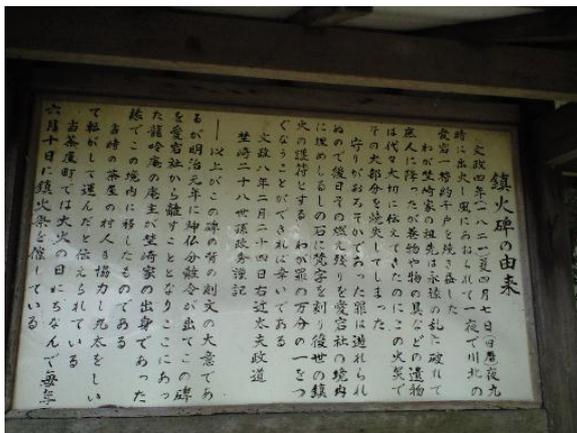


龍吟庵跡

茶屋町神明社



鎮火碑



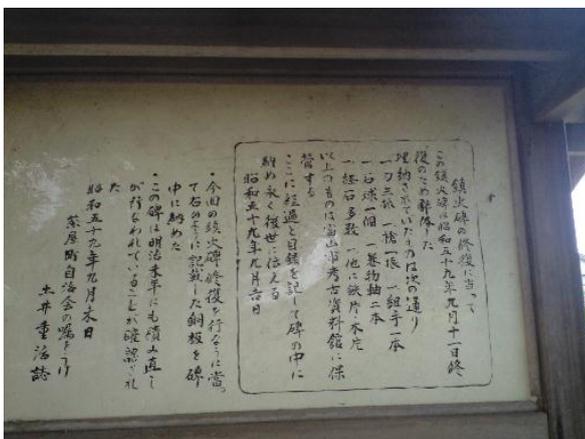
鎮火碑の由来 案内板



梵字種字(カーンマン)  
不動明王



鎮火碑裏面  
由来碑文



鎮火碑の修復について 案内板



乾亨和尚開山所 龍吟庵

## 聖徳太子の彫像

滝本 やすし

聖徳太子の石像については、尾田武雄氏によって砺波地方を中心に二歳像が二百数十体報告されている。これは真宗大谷派井波別院瑞泉寺の太子堂に安置されている南無太子像の模刻であり、この地方においての厚い信仰がうかがえる。富山県内では、呉東での作例は希である。また同様の二歳像は『太子信仰と北陸』（平成九年、石川県立歴史博物館）に、石川県内の寺院に所蔵されている四十体ほどの木像が報告されている。しかし石川県内では、二歳の石像は一体も確認されていない。また福井県内でも木像の報告例があるが、極めて希であると紹介されている。

手に柄香炉を持つ十六歳像（孝養像）は、私の在住する金沢市でもほとんどの真宗寺院に掛軸が掲げられている。『太子信仰と北陸』では三十体ほどの木像が報告されている。しかし石川県内や福井県内では石造での作例は少ない。富山県内では、立山町や富山市に石像が多くみられる。

二歳像と十六歳像以外の作例は木像や絵像にいくつかみられるが、石像は希である。

北陸地方にみられる聖徳太子の石像や木像など、代表的なものや珍しいものをいくつか紹介しておきたい。



二歳像  
富山県射水市布目沢 路傍



二歳像  
富山県富山市秋吉新町 路傍



二歳像と七歳像(陶製)  
富山県高岡市二上 高野山真言宗慈尊院



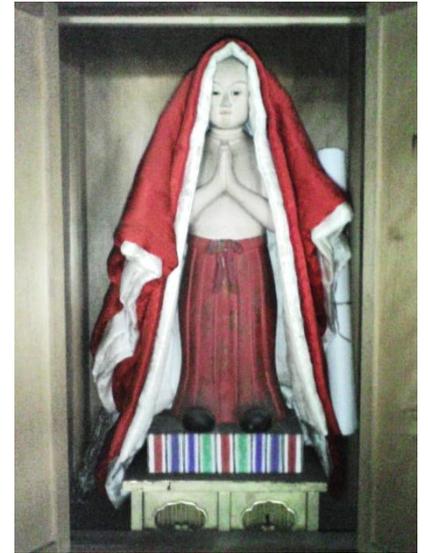
伝 二歳像(土を固めて作った泥像)  
石川県金沢市野町2丁目 真宗大谷派徳龍寺



十六歳像、中央に阿弥陀、右に七高僧  
富山県立山町目桑 路傍



十六歳像  
石川県津幡町八ノ谷 路傍



伝 六歳像(木像)  
石川県宝達志水町 真宗大谷派仰信寺



「聖徳太子尊」  
富山県高岡市五福町 曹洞宗香林寺



十六歳像、右に釈迦、左に観音  
富山県富山市新保 路傍



両手で笏を持つ摂政像  
福井県坂井市丸岡町篠岡 笠間神社



右手で笏を持ち愛犬の雪丸を連れる像  
福井県越前市粟田部町 天台真盛宗粟生寺



曲尺を持つ像  
富山県立山町虫谷 路傍

## 第57回例会報告 — 津幡町の石仏めぐり —

池田 紀子

まず最初に訪ねたのは竹橋にある有聲寺(浄土宗)で、ここには徳本、義賢両行者の名号塔や馬頭観音像、水天、十体の地蔵が納められたお堂があり、義賢名号塔については津幡町で四基確認されています。

杉瀬には猪塚があり私は初めて知りました。安永三年から五年にかけての大雪で数千頭出没した猪を殺し、その証拠に尻尾を持って来ると米一升の褒美が与えられ、その尻尾を埋めて供養したのがこの塚です。供養塔には種子が刻まれています。

同じ集落の八幡神社にある大正三年建立の逆さ狛犬は見事でした。

このあと北中条の三輪神社で如来形座像陽刻板碑を戸の隙間から拝観。加賀爪の地蔵堂の地蔵を格子戸越しに拝観しました。

津幡の狭い路地の一角のお堂に座す弘法大師を拝観した後、清水にある三昧地蔵堂を訪ねました。お堂の真ん中に大きな阿弥陀立像があり、その両脇に六地蔵が三体ずつ並んでいました。阿弥陀を始め、全部が真新しい前掛けをかけ、住民の厚い信仰心を感じます。

庄にある地蔵堂は真ん中に文化五年建立の地蔵立像があり、その両脇に六地蔵が三体ずつ並んでいました。地蔵堂の横の昭和六年建立の説法印を結ぶ浮彫りの釈迦座像はなかなか拝観できない貴重な姿でした。

横浜にある共同墓地の一角に義賢名号塔がありますが、これは一般の墓碑と考えられます。

このあと番外編として川尻にある医師神社を訪ねました。赤戸室石の鳥居には「醫師神社」の額がかかり、由来は名前通り疫病を治めたことによるものですが、薬師とか少名彦とかではなくそのまま「医師」という漢字を使い、それを「くすし」と読むのは本当に珍しいと思えました。

次に訪ねた御門も番外編ですが、ここにある室町時代の如来形座像陽刻板碑は津幡町に三体あるうちの一体で、先に訪ねた三輪神社の如来形座像陽刻板碑もその中の一体です。

下矢田の諏訪神社の境内には「バン」や「キリク」の種子が刻まれている五輪塔がありました。

上大田の集落の入口の小堂には中世のものと思われる半跏地蔵が浮彫りの美しい姿で納められていました。

八ノ谷の集落の盤物場(バンブチバ)と呼ばれる広場の小堂には彩色された明治時代建立の聖徳太子十六歳像が納められています。

同じ集落の八幡神社には薬師如来立像が納められており一見地蔵立像ですが、右手に蓮花、左手に薬瓶を持ち、髪は螺旋髪でした。

次に鳥越の大国神社を訪ねましたが、境内はもちろん室町時代のもので考えられる宝塔も鮮やかな緑色の苔で覆われていました。石川県唯一の宝塔です。

番外編で蓮華寺では素朴な造りの弘法大師を拝観しました。

またまた番外編で行ったのは宮田という集落です。ここには通称「小宮」と呼ばれている神社があります。ブロックを積んで固めたお堂で屋根は神社の屋根の形をしています。その戸を開けると正面に「観世音」と刻まれた石の額があり、その下の扉を開くと如来形座像陽刻板碑が石祠に納められていました。津幡町にある如来形座像陽刻板碑三体の中の一体で、今日はそれを全部拝観しました。その両脇には美しい色合いの随神が座っています。

そのあと津幡で平知度の首塚を訪ね、明治時代に現在地に移された義賢名号塔を拝観しました。

倉見では「ウェルピア倉見」という温泉の敷地内にある「南无薬師」の文字碑と薬師如来座像を拝観しました。身体に良い温泉と思われず。

ここからはずっと倉見の集落の石仏巡りになります。椿で有名な祐閑寺(浄土真宗)の境内には大きな親鸞の石像があります。



如来形座像板碑



弘法大師

少し山奥に入った所に地藏広場があり、各火葬場から集められた六地藏二十四体がL字型に並んだ姿には圧倒されました。正面のお堂には真ん中に大きな阿弥陀如来立像と両脇にこれもまた大きな地藏合掌立像がありました。倉見の路傍には円盤型の徳本名号塔と自然石を彫りくぼめた義賢名号塔があり、この二基の大きさにも圧倒されます。また義賢名号塔も四基全部拝観できました。

最後は新幹線高架下の山の麓に「祇園」（明和七年六月十五日）「山神」（明和七年二月九日）の石塔が石祠に納められており、石造の山神が現存するのはここだけです。

今回もたくさん石仏と出会えてとてもよかったです。案内、説明して下さった滝本さんには感謝しています。ありがとうございました。



五輪塔群



地藏広場全景

## 北陸石仏の会平成29年度決算

## 収入の部

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	156,925	156,925	前年度繰越金
会費	60,000	66,000	22人×3000円
雑収入	15	0	貯金利子
合計	216,940	222,925	

平成三十年度事業計画  
 第56回例会 福井県(5月)  
 第57回例会 石川県(10月)  
 会報 年三回発行

## 支出の部

項目	予算	決算	備考
事務費	0	0	
会報費	30,000	50,000	会報(送料込み)カレンダー
郵送費	0	0	
会誌費	126,925	0	
予備費	0	0	
合計	156,925	50,000	

## 役員構成

監事	理事	理事	事務局	副会長	会長
松井兵英	池田紀子	酒井靖春	尾田武雄	滝本やすし	平井一雄

$$222,925 - 50,000 = 172,925$$

次年度繰越金 172,925円

## 平成30年度予算案

## 収入の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
前期繰越金	172,925	172,925	
会費	66,000	60,000	
雑収入	0	15	貯金利子
合計	238,925	232,940	

## 支出の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
事務費	0	0	封筒など
会報費	50,000	50,000	会報
郵送費	0	0	切手代
会誌費	0	182,940	『北陸石仏の会研究紀要』
予備費	0		
合計	50,000	232,940	